

妊娠期の親子関係 (1)

一年齢を外的基準とした

数量化第Ⅱ類によるSCT-PKSの統計的分析一

恒次欽也¹⁾ 庄司順一²⁾ 川井 尚³⁾

1. はじめに

妊娠期ならびに産褥期の母子関係に関してはマタニティ・ブルーなどの心理臨床的問題から近年とみに関心が高まっている。また、妊娠期からの親子関係はここ数年、心理的・医学的・生理学的・比較行動学的見地からのアプローチが数多くなされるようになってきた。³⁾⁵⁾

われわれも以前から妊娠期中の母子関係に影響を与えると考えられる要因についてSCT-PKS(妊婦用文章完成法検査 川井 尚, 庄司順一1983)を用いて検討してきた。¹⁾²⁾⁴⁾たとえば、母親の妊娠、胎児、出産に対する態度を母親自身のこれまでの妊娠回数、流産の経験の有無や検査実施時の妊娠期(前期, 中期, 後期)などの要因との関係からの分析を行ってきた。その結果の1例をあげると、検査実施時の妊娠期を外的基準とした数量化第Ⅱ類で回答を分析した場合では前期と中・後期の間に約80数%の判別比が得られた。この群間を判別する基準は妊娠・出産・胎児への実感の程度と解釈され、前期から中・後期へ移るにつれて実感が高まっていくことが分かった。

また、妊娠期からの親子関係の形成の問題として考えたとき、妊婦の夫の存在を無視することは当然できない。妊婦の夫に本検査の男性版を施行したところ妊婦の夫にとっても妻と同様にこの妊娠期間中が父子関係の形成の出発点となっていることが明らかとなりつつある。⁷⁾⁸⁾

今回は、妊婦および夫の年齢がSCT-PKSの回答にどのような効果をもたらすかに焦点をあてて検討を加えていきたい。

今回の対象者の場合、この年齢要因と対象者の子どもの人数との連関は高くない(phi係数=0.125)これは年齢に関係なく子持ちの対象者が少ない(約80%が今回の妊娠が初めてである)ことに起因している。つまり、経産であるかどうかの問題と切り離して純粋に妊娠、出産、胎児への意識の年齢要

1) 愛知教育大学

2) 都立母子保健院

3) 東京都精神医学総合研究所

因の効果を検討できるものと考えられる。

本研究の目的は以下のようである。

1) 妊婦ならびに夫はそれぞれの年齢段階に応じて妊娠・出産・胎児への意識、態度が異なってくるものと予想される。そこで、以下に述べる方法にもとづいて年齢により反応が異なるのか、また異なるとすればどのような相違が認められるのかについて検討を加えていきたい。

2) 年齢段階は対象者の項で述べる基準に従って妊娠版は3期に、男性版は2期に分け、これを判別の為の外的基準として数量化第Ⅱ類を適用する。これによっても判別されるならばどのような反応がこの判別に寄与するのかを検討する。なお、今回は1)にそうものとしてSCT-PKSの領域I「母(父)親と胎児との関係」(後述)に係わる項目に対して分析を行なう。

3) さらに妊婦版と男性版との結果の相違に着目して妊娠、出産、胎児への意識の違いを明らかにしたい。

2. 方 法

(1) 対 象 者

妊婦の対象者数は総数596名であった。検査実施地域別の内訳は東京550名(92.3%)、福岡46名(7.7%)であった。また、年齢別では20～24歳(前半群と略す)が121名(20.3%)、25～29歳(後半群)が322名(54.0%)、30歳以上(30歳代)が136名(22.8%)、不明17名(2.9%)であった。

男性版で対象とした妊婦の夫は247名であった。地域別の対象者の内訳は東京186名(62.3%)、福岡61名(24.7%)であった。年齢別の内訳は20歳代157名(68.6%)、30歳代84名(34.0%)、不明6名(2.4%)であった。妊婦と夫の対象者数が合わないのは妊婦版は男性版よりも早く資料を収集しはじめた為である。なお、年齢不詳者は分析の対象から外した。

(2) 資料の収集方法について

SCT-PKSの収集方法は妊婦が母親学級や外来、保健所に来院したときに妊婦には妊婦版を配付し、それと同時に夫用として男性版も配付して次回の来院までに回答して提出するように求めた。

検査は精研式SCTと同様に途中まで記述してある文章の後を続けて記入して文章を完成させるように求めた。さらにフェイス・シートに関する各質問に回答を求めた。なお、回答する際に夫婦間で相談することのないように注意した。

(3) SCT-PKSについて

本検査の様式は資料として男性版のみ掲載した。妊婦版も同じ形式となっている。⁹⁾

SCT-PKSは38の質問項目と23のフェイス・シート(男性版は22)から成り立っている。また38の質問項目はその質問の内容により領域を7つに分類している。その内訳は省略する。⁶⁾⁷⁾なお各領域に配当される質問項目は妊婦版と男性版によりやや異なっていて、今回分析の対象とした領域Iの場合では3項目が一致している(I 6, I 17, I 30)。

妊婦版の領域 I（母親と胎児との関係）は 6 項目で、I 2 「はじめて妊娠に気づいたとき私は」、I 4 「おなかが大きくなってくると」、I 6 「出産」、I 12 「妊娠して私の変わったことは」、I 17 「おなかの赤ちゃんが動く」と、I 30 「私はおなかの赤ちゃんに対して」から構成されている。

男性版の領域 I（父親と胎児との関係）は 4 項目で、I 6 「出産」、I 10 「赤ちゃんが生まれるときいて私は」、I 17 「おなかの赤ちゃんが動く」と、I 30 「私はおなかの赤ちゃんに対して」から成り立っている。

(4) 資料の整理方法

得られた資料ははじめに各質問項目ごとに主要な反応をとりだして原意を損なわないようにしてまとめ、回答のカテゴリとした。その次にこのカテゴリにもとづいて回答者の各反応をコーディングした。このコーディングした資料を分析の対象とした。

なお、各質問項目共通のカテゴリは 4 種ある。1 つは回答拒否で、ある項目に対して無回答であった場合に、2 つめは回答失敗で、ある項目から最後の項目まで無回答であったときにそれぞれコーディングした。ただし、今回のデータ処理にあたっては回答失敗は *missing data* として外した。これはこのカテゴリの性質上質問項目間での関連が非常に高くなってしまって正確な分析を行なえないからである。さらに、3 つめは特異反応で心理臨床上の問題となりそうな *negative* な回答に、4 つめはその他でコーディング・カテゴリとしてはまとめにくい少数の回答に対してコーディング・カテゴリとしてはまとめにくい少数の回答に対してコーディングした。ただし、少数の反応でも重要と思われた回答は例外的にカテゴリとした場合もある。

3. 結果と考察

(1) 男性版について

年齢を 20 歳代群と 30 歳代群の 2 群に分けてこの 2 群間で回答を判別することができるかどうかを数量化第 II 類により分析した。その分析の精度を示す相関比は第 1 軸で 0.209 で十分なものが得られた。

つぎに外的基準ごとにノーマライズド・スコアによるサンプル・スコアの累積度数分布曲線を描き、その交点から判別率を求めたところ約 70 % の判別率が得られた (Fig. 1 参照)。この結果、年齢群により回答に相違があるものと考えられる。

ここで、各群のサンプル・スコアの平均と標準偏差を示したい (Table 1 参照)。これによるとノーマライズド・スコアが正の方向であれば 20 歳代 (平均 0.335)、負の方向であれば 30 歳代 (平均 -0.626) であることが分かる。

さらにこの 2 群を判別するのに最も寄与している質問項目をみるために偏相関係数とカテゴリ・スコアのレンジを算出した結果を述べる (Table 2 参照)。

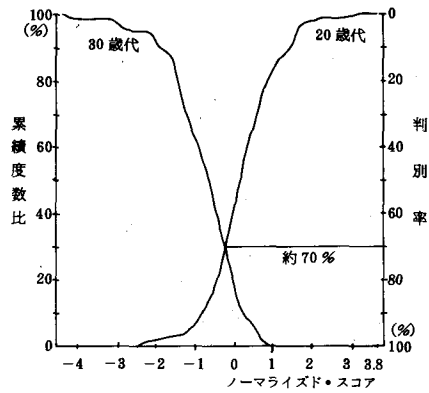


Fig.1 男性版の判別グラフ

Table 1 各群のノーマライズド・スコアの平均値と標準偏差、人数

構 成		平均値	標準偏差	人 数 ()内%
男性版	20歳代群	-0.408	0.759	157 (63.6)
	30歳代群	0.762	0.957	84 (34.0)
女性版	20~24歳群	0.482	0.732	121 (20.3)
	25~29歳群	0.169	0.858	322 (54.0)
	30歳代群	-0.890	1.035	186 (22.8)

Table 2 男性版の各項目ごとのカテゴリ・レンジ、偏相関係数と主要な回答のカテゴリ・スコア

質問項目	主要な回答	カテゴリ・スコア	カテゴリ・レンジ	偏相関係数
I 6 出 産	<ul style="list-style-type: none"> ・回答拒否 ・立ち会いたい ・不安, 心配 ・～日に生まれる予定 ・嬉しいが不安 ・五体満足で ・大変なこと ・特異 	1.285 1.021 0.704 0.614 0.536 -0.416 -0.975 -3.208	4.492	0.265
I 10 赤ちゃんが生まれ ると聞いて私は	<ul style="list-style-type: none"> ・責任を感じる ・不安と期待 ・特異 ・回答拒否 ・嬉しいが責任を感じる ・一人前になった ・生活面での不安を持つ 	0.890 0.662 0.537 -1.082 -1.522 -1.574 -1.761	2.652	0.308
I 17 おなかの赤ちゃん が動くと	<ul style="list-style-type: none"> ・回答拒否 ・その他 ・父親としての実感わく ・神秘的, 不思議 ・妻の報告を待っている 	3.204 0.543 0.308 -0.606 -0.749	3.953	0.199
I 30 私はおなかの赤ちゃん に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・特異 ・その他 ・～のように育て欲しい ・実感が無い ・話しかける ・父として立派でありたい ・実感がある ・まだなにも感じない 	1.355 0.942 0.254 -0.375 -0.457 -0.620 -0.701 -2.384	3.739	0.278

この表によれば I10 が最も偏相関が高く (0.308), 判別に最大の寄与をしていることが分かる。ついで I30 (0.278), I6 (0.265), I17 (0.199) の順に寄与が低下している。カテゴリ・レンジでは I6 が最も大きく (4.492), I17 (3.953), I30 (3.739), I10 (2.652) という順になっていて偏相関の場合と順序が異なっている。カテゴリ・レンジは特定のカテゴリによる影響を受け易いのでここでは偏相関の大きいものを中心に考えてみたい。

最大の偏相関を得た I10 での正の値が責任を感じる, 不安と期待, 特異などであり, 負の値は生活面での不安, 一人前になった, 嬉しいが責任を感じるとなっている。これは 20 歳代は妻の妊娠を知らされた時のとまどいが感情的に表出したということが対して, 30 歳代は現実的な不安と父親になることへの責任, 言い換えると父親意識が現われたものと解釈できよう。

また, I30 では正の値は特異, その他が, 負の値ではまだ何も感じない, 実感がある, 父として立派でありたい, 話しかけるなどである。従って 20 歳代は妻のおなかの中の胎児の存在を感情的に消化しきれない, あるいは受容できないことを示したと考えられる。他方, 30 歳代は実感のなさと同様に併存して父親意識も出てきている。つまり, 胎児の存在を 20 歳代のように感情的に受容できないのではなく, その存在を実感できれば, それに基づいた行動をとったり, 父親意識を持ちえたりする。しかし, 存在を実感できなければ感情的にそれを拒否することなく, 率直に実感のなさを表現することができるのだといえるのではなからうか。

I6 では正の値は回答拒否, 立ち会いたい, 不安・心配などであり, 負の値は特異, 大変なこと, 五体満足で, である。これは 20 歳代の場合, 出産への自分自身の不安が表明されたのに対して, 30 歳代は自身の不安よりも出産に伴う妻へのいたわりや胎児への不安が表出していると捉えることができる。

これらをまとめると, 20 歳代は妻の妊娠にとまどい, 胎児の存在を受容できず, 出産には不安をかきたてられてしまう様子がうかがえる。それに対して 30 歳代は妻の妊娠には現実的な不安が認められるが父親意識も現われる。また, 胎児の存在に感情的に混乱することも少ない。さらに, 出産には自分自身よりも妻や胎児への配慮が認められる。

要するに, 20 歳代が妻の妊娠に感情をうまく整理できないのに比べて 30 歳代はより成熟した大人として対応しているといえるのではなからうか。

(2) 妊婦版について

つぎに妊婦版の数量化第Ⅱ類の結果を述べる。判別の精度を示す相関比は第 1 軸で 0.227 で十分に分析可能である。

各年代ごとのノーマライズド・スコアのサンプル・スコアの平均値と標準偏差は Table 1 に示した通りであるが, これによると前半群は正の大きな値 (平均 0.482) を, 後半群は正の小さな値 (平均 0.169) を得ている。さらに, 30 歳代は負の値 (平均 -0.830) となっている。要するに 20 歳代は正の値, 30 歳代は負の値ということが出来る。

男性版と同様の方法で判別率を求めたところ前半群と後半群との間では約 56%, 前半群と 30 歳代群では約 78%, 後半群と 30 歳代群とは約 72% であった (Fig. 2)。このことから 20 歳

* ここでいうカテゴリは各項目への回答カテゴリのことで, ときによって回答, 反応ともいっているが同じ意味である。

代の2つの群は殆ど判別されないということと、20歳代群と30歳代群では約70～80%で判別されることが分かった。

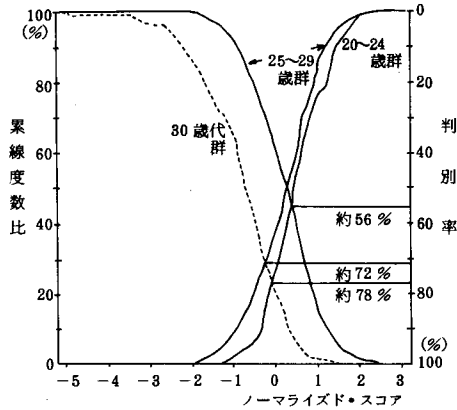


Fig.2 妊婦版の判別グラフ

つきにこの20歳代群と30歳代群との判別するのに最も寄与する質問項目を調べる為に偏相関とカテゴリ・レンジを求めた結果をTable 3に示す。

Table 3 妊婦版の各項目ごとのカテゴリ・レンジ, 偏相関係数と主要な回答のカテゴリ・スコア

質問項目	主要な回答	カテゴリ・スコア	カテゴリ・レンジ	偏相関係数
I 2 はじめて妊娠に気 づいたとき私は	<ul style="list-style-type: none"> 驚き その他 嬉しいけど不安 嬉しいこと 身体のこと 特異 女性性(母性)に関して 回答拒否 	<ul style="list-style-type: none"> 0.558 0.398 0.218 -0.444 -0.581 -0.812 -3.491 	4.048	0.196
I 4 おなかが大きくな てくると	<ul style="list-style-type: none"> 嬉しいけど不安 嬉しい 幸せ 不思議 体が太る (母となる)自覚, 実感 見苦しい, みっともない 安心, 平和な気分 出産への不安 特異 恥かしい 回答拒否 	<ul style="list-style-type: none"> 0.790 0.492 0.461 0.431 0.887 -0.550 -0.568 -0.613 -0.733 -0.982 -3.084 	3.874	0.227
I 6 出 産	<ul style="list-style-type: none"> 特異 未知, 神秘 早く生まれて欲しい 五体満足で 回答拒否 	<ul style="list-style-type: none"> 1.229 1.099 0.329 -0.954 -1.250 	2.479	0.180
I 12 妊娠して私の変 わったことは	<ul style="list-style-type: none"> 回答拒否 周囲の子どもへの関心 女として一人前 身体の変化 性格の良い方への変化 特異 性格の変化(+と-) 母性の自覚, 実感 	<ul style="list-style-type: none"> 3.538 1.287 0.881 0.695 -0.612 -0.834 -1.255 -1.641 	5.174	0.275
I 17 おなかの赤ちゃん が動くと	<ul style="list-style-type: none"> 話しかける 痛い, むずがゆい 不思議, 変な感じ まだわからない 回答拒否 話しかけて触る 触る 	<ul style="list-style-type: none"> 0.808 0.703 0.490 -0.603 -0.683 -1.126 -1.386 	2.189	0.208
I 30 私はおなかの赤 ちゃんに対して	<ul style="list-style-type: none"> 出来る限りのことをする 男か女か想像する その他 よい母親でない 良い子に育つように 責任, 義務がある 特異 回答拒否 実感がでてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 1.022 0.810 0.708 0.676 0.675 -0.613 -0.988 -1.218 -1.613 	2.640	0.268

偏相関をみてみると最も判別に寄与している項目は I 12 の妊娠後の変化 (0.275) である。ついで I 30 (0.268), I 4 (0.227), I 17 (0.203), I 2 (0.196), I 6 (0.180) という順番になっている。カテゴリ・レンジでは I 12 が最大で (5.174), ついで I 2 (4.048), I 4 (3.874), I 30 (2.640), I 6 (2.479), I 17 (2.189) となっている。これも順序が偏相関と異なっているが男性版と同様に偏相関を中心に結果を述べたい。

表にもとづいて各年代の結果をみていくが、先に述べたように前半群と後半群との判別率が低いので、この両群を合わせて 20 歳代として分析したい (つまりカテゴリ・スコアが正の値であれば 20 歳代とする)。

偏相関の最も大きい I 12 からみていきたい。カテゴリ・スコアの正の値は回答拒否, 周囲の子どもへの関心, 女として一人前などである。負の値は母性の自覚・実感, 性格の変化, 特異, 性格の良い方への変化などである。妊娠後の自己の変化に関して 20 歳代では自分自身の内的な変化よりも外面的な変化に注目しているのに対して, 30 歳代は自分の性格の変化を中心とした内面的な変化を取り上げているのが特徴的である。

I 30 では正の値は出来る限りのことをする, 男か女か想像する, その他, 良い母親でない, 良い子に育つようにであった。負の値は実感が出てきた, 回答拒否, 特異, 責任・義務があるなどである。胎児に対して 30 歳代は母性意識の強い態度と negative なものとが並んで認められる。また, 20 歳代の母親では一貫した意識・態度が認められない。これは胎児の存在をどのように捉えたら良いのかといった感情的なとまどいがあるためではないかと推測される。それと同時に, 各年代ともにそれぞれの群内で更に, 二分されるような要因が含まれているのかもしれない。

I 4 では正の値は嬉しいが不安, 嬉しい, 不思議などであり, 負の値は回答拒否, 恥ずかしい, 特異, 出産への不安, 安心, 見苦しいなどである。20 歳代の母親はおなかの変化に率直な驚きや喜びの感情を述べている。30 歳代の母親は逆にこの変化に一種 negative な感情がひきおこされているのが特徴的である。

I 17 では正の値は話しかける, 痛い, 不思議, 負の値は触る, 話しかけて触る, 回答拒否, まだわからないである。20 歳代の母親は胎動に胎児への働きかけも認められるがそれよりも胎動そのものがひきおこす感情に支配されているように見受けられる。それに対して 30 歳代は I 4 で一見妊娠に negative であるかのような反応が見られたがここでは積極的に胎児への接近を凶っている様子がうかがわれて興味深いといえよう。

以上をまとめると 20 歳代の母親は妊娠したことには素直な驚きと共に喜びが表明されている。また, 胎児のみならず, 他の子どもへの関心も認められる。30 歳代では妊娠を恥ずかしいとかみっともないものといった一種 negative とも思える捉え方がされている。また, 出産も大変であると思っている。しかし, 胎児の存在そのものには積極的な接近欲求が認められると同時に母親としての自覚, 実感が生じている。この 30 歳代の母親の態度はこの歳になって妊娠したことに対する気恥ずかしさを示しているのだが他方では子どもを持つことには成熟した女性らしい気持ちがよく現れたものと考えられる。20 歳代の母親は妊娠そのものがすぐに喜びの感情と結びついているといえるが母親としての意識はどちらかというともまだ薄いといえよう。

(3) 妊婦版と男性版との比較

この両版を比較する場合、項目の数や回答カテゴリの質的な相違が本分析にかける以前に認められていることに留意しなければならない。従って、この分析による結果の相違のほとんどがこうした違いに依拠しているものと考えるのが自然である。

ただ、それぞれに述べてきた中で両者に共通しているのは30歳代の意識・態度であると思う。この30歳代の母親、父親は今回の妊娠を比較的冷静に迎えていることである。それに対して20歳代の母親はどちらかというと positive な感情で今回の妊娠を迎えており、反対に父親の方は negative ないしは、そこまでいかなくとも感情的な混乱が認められることに特徴がある。

4. 要約と結論

- 1) 妊婦と夫とが今回の妊娠でどのような意識・態度・感情を抱いているのかを対象者の年代との関係で分析することを試みた。
- 2) この目的にそったものとして SCT- PK S (妊婦版と男性版) を妊婦と夫それぞれに実施した。
- 3) 対象者の年齢を外基準として数量化第Ⅱ類による判別分析を SCT- PK S の領域Ⅰ(母「父」親と胎児との関係) に適用して分析した。
- 4) その結果、夫の20歳代は30歳代との間に凡そ70%の判別比が得られた。妊婦の前半群(20~24歳)と後半群(25~29歳)との間で約56%、前半群と30歳代との間で約78%、後半群と30歳代との間で約72%の判別率が得られた。妊婦の場合、前半群と後半群とで判別不能であったので以降20歳代にまとめて分析した。
- 5) 男性版の年代間を判別する主な基準は偏相関とカテゴリ・スコアの分析から妻の妊娠、出産、胎児への対応の相違であり、30歳代は冷静ないしは現実的、20歳代は感情的と解釈された。
- 6) 妊婦版と男性版の結果を比較してみると、20歳代では夫側は感情的混乱が、妊婦側は positive な感情がそれぞれ認められた点で異なっていた。
- 7) 30歳代では妊婦側は妊娠にはやや negative な感情があるものの胎児には極めて親密な感情が認められた。つまり、両義的感情に支配されているといえるが、これは年齢の高さ、それもこの年齢で初産を迎える妊婦が多いことに由来しているのではないかと考えられる。一方、夫側は冷静とも現実的ともいえるが、やや建て前論的などところがあるともいえた。
- 8) これらの結果をふまえて今後、以下の問題を考えなくてはならない。
 1. こうした年齢要因が出産後にどういう意味を持ちうるのか、出産後の関係をみるために開発した SCT- IKS, SCT- TKS の結果とも絡めてみていきたい。
 2. また、今回は人数その他の事情でできなかったが夫婦をペア・マッチングした反応の比較検討も考えなくてはならない。
- 9) なお、今回の結果は夫々の年代の代表的な反応を導き出したのではなく、年代間の差を際立たせる反応を抽出することが目的であった。従って、上述した結果をもってして必ずしもそれぞれの年代を代表する意識・態度・感情であるとしてはならないことに留意されたい。

附 記

1. 検査にご協力下さった妊婦の皆様、並びに検査実施に多大なご協力を下さった都立母子保健院の関係各位に謝意を表したいと思います。
2. 本研究は厚生省の心身障害児研究「母子相互作用」研究班（班長：小林 登先生）の研究費によるものである。
3. 本研究の資料の収集ならびに分析にご協力下さった東京大学母子保健学教室の小林 登先生、高田谷久美子氏に謝意を表します。

参 考 文 献

- 1) 川井 尚ほか 1982 妊娠期の母子関係～妊婦用文章完成法検査（SCT-PKS）の作成～ 乳児発達研究会発表論文集 第4号 Pp. 47-50
- 2) 川井 尚 1984 妊娠期の心と母子関係 — 妊婦用文章完成法検査（SCT-PKS）の反応から— 助産婦雑誌 38 6 Pp. 465-472
- 3) 庄司順一ほか 1983 妊娠初期の母子関係(2) ～妊婦用文章完成法検査（SCT-PKS）の改訂と男性版の作成～ 乳児発達研究会発表論文集 第5号 Pp. 44-47
- 4) 小林 登 1984 別冊発達 乳幼児の発育と母と子の絆 ミネルヴァ書房
- 5) 周産期医学編集委員会編 1983 母子相互作用 周産期医学 臨時増刊号 13巻12号
- 6) 恒次欽也ほか 1984 妊娠期の母子関係(3) ～妊婦用文章完成法検査の数量化第Ⅱ類・Ⅲ類による統計的分析～ 乳児発達研究会発表論文集 第6号 Pp. 18-26
- 7) 恒次欽也ほか 1985 妊娠期の母子関係(5) ～SCT-PKS男性版の数量化第Ⅱ類・Ⅲ類による統計的分析— 乳児発達研究会発表論文集 第7号 Pp. 7-14
- 8) 恒次欽也ほか 1986 妊娠期の母子関係(6) —SCT-PKS男性版の数量化第Ⅱ類による妻の妊婦回数統計的分析— 乳児発達研究 第8号 Pp. 1-6
- 9) 恒次欽也ほか 1986 妊婦用文章完成法検査（SCT-PKS）による妊娠からの母子関係(1) その概要と統計的分析から 愛知教育大学研究報告 第35輯（教育科学）Pp. 235-247
- 10) マーケティング・サイエンス研究会編 1974 マーケティング調査 有斐閣

SCT-PKS

(男性用)

ふりがな お 名 前	
住 所	
生 年 月 日	年 月 日
記 入 年 月 日	年 月 日 (年令 歳)
奥様の出産予定日	年 月 日 妊娠 週

記 入 の 仕 方

このアンケートには、いろいろ書きかけの文章があります。それぞれのこ
とばを見て、頭に浮んだことを、そのことばに続けてかいて、文章を完成
させて下さい。

あまり考えこまずに、思いついたことをそのまま自由にかいて下さい。
すぐに思い浮かばないときには、その番号に○をつけて、あとでかいて下
さい。

なお、誰とも相談せずに、誰にも見せずに、あなた御自身のお気持ちをお書
き下さい。

〔例〕

公園 にはたくさんの子どもが遊んでいます。

1. 私は、子どもの頃 _____
2. 妻の妊娠に気づいたとき、私は _____
3. 私は母と _____
4. 妻のおなかが大きくなってくると _____
5. 妻と私は _____
6. 出産 _____
7. 母に甘えたこと _____
8. もし私が女だったら _____
9. 私ときょうだいは _____
10. 赤ちゃんが生まれるときいて、私は _____
11. 私は子どもと _____
12. 妻が妊娠して、私のかわったことは _____

13. 子どもを育てることは _____

14. 私が泣きたくなるのは _____

15. 父は _____

16. 心配なことは _____

17. おなかの赤ちゃんが動くとき _____

18. 妻に対して私は _____

19. 私は男として _____

20. 父と母は _____

21. 私は将来 _____

22. 乳房 _____

23. 妻はおなかの赤ちゃんに対して _____

24. 困りはてたとき、私は _____

25. 私の子どもはきっと _____

26. 私は父と _____

27. 妊娠して、妻のかわったことは _____

28. 私のからだは _____

29. 父に甘えたこと _____

30. 私はおなかの赤ちゃんに対して _____

31. 仕事 _____

32. 母は _____

33. 性 _____

34. 子どもが泣きやまないと _____

35. 私は父親として _____

36. 妻と子どもは _____

37. 親友は _____

38. 妻の親と私は _____

以下の補足質問にもお答え下さい

1. 結婚年数 _____ 年 _____ カ月

2. 御家族について

同居しているのは、自分を入れて _____ 名

その内訳は……私 妻 _____

3. あなたの学歴・職業について

学歴（中学卒・高校卒・専門学校卒・短大卒・大学卒）

現在の職業（仕事の内容） _____

4. 奥様について

年令 _____ 才

今回の妊娠は（初めてである

_____ 回目である

学歴（中学卒・高校卒・専門学校卒・短大卒・大学卒）

現在の職業（無

有（仕事の内容） _____

奥様は _____ 人きょうだいの _____ 番目である

5. あなたの御両親、御きょうだいについて

私は _____ 人きょうだいの _____ 番目である

姉 _____ 名、兄 _____ 名、妹 _____ 名、弟 _____ 名

父は _____ 才で、職業は _____

母は _____ 才で、職業は _____

（もしも御両親がお亡くなりになっている場合、それは

何才のときで、あなたはそのとき何才でしたか）

父親 _____ 才時、そのとき私は _____ 才だった

母親 _____ 才時、そのとき私は _____ 才だった

御協力ありがとうございました

発行 乳児発達研究会（都立母子保健院内 TEL 420-7271）

著者 川井 尚・庄司 順一

（次のページへおすすみください）